

代表決定戦を前に合同練習で、細部を確認する渡島連合チームの選手たち



渡島連合 26日の決定戦に闘志燃やす

夏の全国高校野球選手権大会と地方大会に代わる道内独自大会の函館支部大会(道高野連主催)で、渡島連合(七飯、八雲、大野農)が代表決定戦へ進出した。26日にAブロック代表をかけて戦う相手は強豪・函工。昨秋に逆転負けを喫した相手だけに選手たちはリベンジを誓い、練習に汗を流している。

(水島久美)

高校野球独自大会函館支部

昨秋敗れた函工と対戦

同支部の記録によると、夏季の代表決定戦進出は七飯が9年ぶり、八雲は45年、大野農も60年ぶりだ。渡島連合は選手16人で、昨秋か

ら2大会連続同じ3校で組む。新型コロナウイルス感染拡大の影響で練習再開は6月となり、大会までにチーム練習できたのは4、5

「回くらい」(八雲・山崎祐介監督)だった。

選手たちは昨秋のチーム発足時に無料通信アプリ「LINE」のグループをつくり、連絡を取り合った。近藤結斗主将(七飯3年、投手)は「会えない分コミ

ユニケーションを心がけた」と話す。連合チームの工藤拓郎監督(大野農)は「厳しいことも指摘し合えるようになってきている」と再開時、選手の変化を感じた。

1回戦は6-5で函水に逆転勝ちし、2回戦も29-0で南茅部に大勝した。近藤主将は「点を許してもテ

し流れを引き寄せた。勝てると思った試合でも、少しのミスでも指摘し合い、全力で戦った」と振り返る。

函工とは昨年の秋の支部予選で対戦し、8回に一挙4点を許し、3-6で敗れている。大一番を前に佐藤昌弥内野手(大野農3年)

は「悔しい負け方をした相手。勝ちにいけます」と強気。石川伊吹外野手(八雲3年)も「リベンジできる機会をつかめたのは幸運。悔いのない戦いを」とチーム一丸の勝利を誓う。

今大会は感染防止のため、観戦を部員や家族に限定している。